



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年4月28日

上場会社名 山崎製パン株式会社
 コード番号 2212 URL <https://www.yamazakipan.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 延浩
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 会田 正久
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03-3864-3110

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日～2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	333,672	4.7	18,328	9.0	18,789	13.5	11,931	8.7
2025年12月期第1四半期	318,735	3.9	16,817	1.8	16,550	△4.8	10,979	0.3

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 17,716百万円 (55.8%) 2025年12月期第1四半期 11,372百万円 (△26.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第1四半期	60.49	—
2025年12月期第1四半期	55.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第1四半期	915,906	513,597	50.5
2025年12月期	931,878	510,828	49.3

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 462,175百万円 2025年12月期 459,881百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	—	—	60.00	60.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	—	—	60.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日～2026年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	663,000	1.9	35,000	0.9	35,800	1.0	23,300	1.4	118.22
通期	1,338,000	2.0	64,000	4.7	67,000	4.2	42,500	3.9	215.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2026年12月期1Q	220,282,860 株	2025年12月期	220,282,860 株
-------------	---------------	-----------	---------------

② 期末自己株式数

2026年12月期1Q	23,378,010 株	2025年12月期	22,728,150 株
-------------	--------------	-----------	--------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2026年12月期1Q	197,229,785 株	2025年12月期1Q	198,218,128 株
-------------	---------------	-------------	---------------

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○ 添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(セグメント情報等の注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2026年1月1日～2026年3月31日）におけるわが国経済は、賃上げにより所得環境の改善が進み、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど、景気は緩やかな回復基調で推移しました。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、卵や油脂等の原材料価格の高止まりに加え、人件費や物流費等の上昇もあり、厳しい経営環境となりました。また、コンビニエンスストア業界におきましては、ドラッグストアや小型スーパー等の他業態との競争激化や人件費等のコスト上昇もあり、厳しい経営環境となりました。

このような情勢下にあります、当社グループは、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、主力製品の品質向上をはかるとともに、2極化・3極化戦略によって低価格製品を充実する一方で、女性製品開発担当者を中心に付加価値を付けた製品開発に取り組むなど、変化するお客様の求めに応じた隙のない製品開発を推進しました。また、一昨年、新規技術を活用して大幅な品質改善を実現した「ダブルソフト」の技術を更に前進させた品質改善技術を、「ダブルソフト」に導入して昨年11月にリニューアル発売し、この技術を本年1月に主力の「ロイヤルブレッド」に導入するとともに、他の食パン、菓子パン、和洋菓子製品等にも活用し、品質向上による業績向上をはかりました。

また、当社は労働安全衛生管理体制の充実強化を推進し、労働安全衛生推進基本会議を毎月開催して、経営陣、本社各部・各工場が一体となって、労働安全衛生に関する問題課題の解決に取り組みました。安全日誌を活用して従業員によるチョコ停・トラブル、ヒヤリハットの情報を日次・週次・月次で管理し改善を進める下からの労働安全衛生管理体制とともに、本社各部及び各工場における機械設備のリスクアセスメントによるリスクの排除・低減に加え、管理・監督職が日々の安全パトロールや安全教育を実施する上からの労働安全衛生管理体制により、2本立ての労働安全衛生管理体制の整備・充実強化をはかり、業績向上対策とともに働く職場の安全安心の実現をめざしました。

デイリーヤマザキやフレッシュベーカーリーの小売事業につきましては、小売事業業績改善プロジェクトにおいて日次管理・週次管理・時間管理の経営手法により問題課題を正確に把握して原因を追究し対応策を推進するなど、日々の仕事の精度向上をはかりました。また、小売事業本部内の戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携し、新規技術により品質向上をはかった冷凍生地を活用するとともに、女性製品開発担当者の感性を活かした競争力のある商品開発を推進するなど、業績向上をはかりました。

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は3,336億72百万円（対前年同期比104.7%）、営業利益は183億28百万円（対前年同期比109.0%）、経常利益は187億89百万円（対前年同期比113.5%）、親会社株主に帰属する四半期純利益は119億31百万円（対前年同期比108.7%）となりました。パン類を中心に新しい品質改善技術を活用して品質向上をはかったこともあり、山崎製パン(株)単体の業績が好調に推移したことに加え、連結子会社の業績も好調に推移し、増収増益となりました。

セグメント別の状況

<食品事業>

食品事業の主要製品別の売上状況は次のとおりであります。

① 食パン部門（売上高302億24百万円、対前年同期比103.7%）

食パンは、本年1月に品質向上をはかった主力の「ロイヤルブレッド」が大きく伸長するとともに、チェーンオリジナル対応を含む低価格食パンやサンドイッチ用食パンが伸長し、前年同期の売上を上回りました。

②菓子パン部門（売上高 1,262 億 1 百万円、対前年同期比 104.0%）

菓子パンは、「コッペパン」や「ホワイトデニッシュショコラ」など新規技術を活用して品質向上をはかった主力菓子パンが好調に推移するとともに、「ずっしりデニッシュ」シリーズや「ドーナツステーション」などの低価格製品が伸長しました。さらに、ヤマザキの技術を積極的に活用した(株)YKベーキングカンパニーの売上が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

③和菓子部門（売上高 220 億 98 百万円、対前年同期比 107.1%）

和菓子は、主力の串団子や大福が伸長するとともに、新規技術を活用し品質向上をはかった「北海道チーズ蒸しケーキ」や低価格製品の「やまざき蒸しパン」が好調に推移し、前年同期の売上を上回りました。

④洋菓子部門（売上高 431 億 17 百万円、対前年同期比 102.4%）

洋菓子は、新規技術を活用し品質向上をはかった2個入り生ケーキや「イチゴスペシャル」などのスペシャルシリーズが好調に推移するとともに、大きなシューシリーズなどのシュークリームが伸長し、前年同期の売上を上回りました。

⑤調理パン・米飯類部門（売上高 407 億 49 百万円、対前年同期比 106.3%）

調理パン・米飯類は、(株)サンデリカにおいて、サンドイッチやおにぎりを中心に主要取引先であるコンビニエンスストアチェーンや量販店との取引が増加したこともあり、前年同期の売上を上回りました。

⑥製菓・米菓・その他商品類部門（売上高 481 億 84 百万円、対前年同期比 108.0%）

製菓・米菓・その他商品類は、(株)不二家の「ホームパイ」が伸長するとともに、ヤマザキビスケット(株)の「チップスター」や(株)東ハトの「ポテコ」等のスナック製品が伸長し、前年同期の売上を上回りました。

以上の結果、食品事業の売上高は 3,105 億 75 百万円（対前年同期比 104.9%）、営業利益は 177 億 71 百万円（対前年同期比 110.3%）となりました。

<流通事業>

デイリーヤマザキのコンビニエンスストア事業につきましては、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始し、運営・商品が一体となって、お客様の求めに応じたオリジナル商品の開発に取り組むとともに、戦略製品・戦略商品開発推進チームと連携してヤマザキの技術を最大限活用した商品開発を推進し、お客様に喜ばれるヤマザキ独自のコンビニエンスストアチェーンをめざしました。また、松戸・杉並ドミナントプロジェクトの取組みを大阪ドミナントに拡大し、大阪エリアの工場と連携してデイリーホットを中心に収益の改善をはかるとともに、売り場づくりや店舗改装によりヤマザキらしい店づくりに取り組むなど、店舗収益の改善をはかりました。この結果、当第1四半期は、チェーン全店売上高及び営業総収入ともに前年同期を上回りました。

以上の結果、流通事業の売上高は 192 億円（対前年同期比 101.5%）となりましたものの、人件費等のコスト上昇もあり営業損失は 4 億 75 百万円（前年同期は 2 億 37 百万円の営業損失）となりました。

<その他事業>

その他事業につきましては、売上高は 38 億 95 百万円（対前年同期比 107.1%）、営業利益は 9 億円（対前年同期比 111.3%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は9,159億6百万円で、前連結会計年度末に対して159億72百万円減少しました。流動資産は3,472億38百万円で、売掛金の減少などにより、前連結会計年度末に対して182億32百万円減少しました。固定資産は5,686億67百万円で、投資有価証券の増加などにより、前連結会計年度末に対して22億59百万円増加しました。負債合計は4,023億8百万円で、支払手形及び買掛金などの支払債務の減少や借入金の返済などにより、前連結会計年度末に対して187億41百万円減少しました。純資産は5,135億97百万円で、その他有価証券評価差額金の増加などにより、前連結会計年度末に対して27億69百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は50.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の見通しといたしましては、わが国経済は、所得環境の改善が進み、個人消費は持ち直しに向かうことが期待されますが、中東情勢の影響が懸念され、景気の先行きは予断を許しません。

当業界におきましては、お客様の節約志向や低価格志向が根強い市場環境の下で、主原料である小麦粉や油脂の価格上昇や人件費の上昇に加え、中東情勢を背景とした包材等の原材料価格や物流費、光熱費の高騰が予測され、厳しい経営環境になるものと思われま

す。このような状況を勘案し、当社は、2026年7月1日出荷分から、一部の食パン、菓子パン及び和洋菓子製品の価格改定を実施することといたしました。価格改定に際しましては、品質の向上や規格の充実とともに価格帯別の製品対応を強化するなど、お客様の求めに丁寧に対応してまいります。

当社グループは引き続き、「いのちの道」の教えに従い、すべての仕事を種蒔きの仕事から開始する営業・生産が一体となった部門別製品施策・営業戦略、小委員会による「なぜなぜ改善」を推進し、新しい品質改善技術を活用した品質向上に取り組むとともに、2極化・3極化戦略によって、変化するお客様の求めに応じた隙のない製品対応を推進し、新しい価値の創造に取り組んでまいります。また、2本立ての労働安全衛生管理体制を整備・充実強化して働く職場の安全安心の実現にも取り組み、着実な業績向上をはかってまいります。

なお、2026年2月12日に公表した第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	163,820	168,261
受取手形	6	4
売掛金	149,734	124,605
商品及び製品	16,023	17,583
仕掛品	1,046	1,453
原材料及び貯蔵品	18,107	19,038
その他	16,961	16,520
貸倒引当金	△230	△228
流動資産合計	365,470	347,238
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	453,738	456,371
減価償却累計額	△333,092	△335,266
建物及び構築物（純額）	120,645	121,105
機械装置及び運搬具	616,504	620,737
減価償却累計額	△514,789	△519,222
機械装置及び運搬具（純額）	101,714	101,515
工具、器具及び備品	46,868	47,185
減価償却累計額	△37,944	△38,075
工具、器具及び備品（純額）	8,924	9,109
土地	127,207	127,796
リース資産	24,558	24,522
減価償却累計額	△16,466	△16,269
リース資産（純額）	8,091	8,252
建設仮勘定	4,981	3,592
有形固定資産合計	371,564	371,372
無形固定資産		
のれん	5,723	5,540
その他	12,389	12,356
無形固定資産合計	18,112	17,897
投資その他の資産		
投資有価証券	85,913	91,434
長期貸付金	581	552
退職給付に係る資産	53,686	54,513
繰延税金資産	9,225	6,129
その他	29,091	28,516
貸倒引当金	△1,768	△1,750
投資その他の資産合計	176,730	179,397
固定資産合計	566,407	568,667
資産合計	931,878	915,906

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	94,426	87,712
短期借入金	56,129	54,557
リース債務	3,421	3,584
未払法人税等	11,855	6,624
未払費用	44,276	41,217
賞与引当金	6,661	17,232
資産除去債務	58	51
その他	57,327	47,159
流動負債合計	274,156	258,139
固定負債		
長期借入金	39,303	36,862
リース債務	4,807	4,840
役員退職慰労引当金	6,131	6,234
退職給付に係る負債	69,303	69,892
資産除去債務	4,892	4,918
その他	22,453	21,421
固定負債合計	146,893	144,169
負債合計	421,050	402,308
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,014	11,014
資本剰余金	9,691	9,691
利益剰余金	406,573	406,485
自己株式	△55,517	△57,741
株主資本合計	371,761	369,450
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,557	45,382
繰延ヘッジ損益	1	1
土地再評価差額金	88	88
為替換算調整勘定	6,681	8,275
退職給付に係る調整累計額	39,789	38,977
その他の包括利益累計額合計	88,119	92,725
非支配株主持分	50,947	51,421
純資産合計	510,828	513,597
負債純資産合計	931,878	915,906

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	318,735	333,672
売上原価	211,833	221,582
売上総利益	106,902	112,089
販売費及び一般管理費	90,084	93,760
営業利益	16,817	18,328
営業外収益		
受取利息	168	224
受取配当金	119	135
固定資産賃貸収入	236	234
持分法による投資利益	108	15
為替差益	—	209
雑収入	270	338
営業外収益合計	903	1,159
営業外費用		
支払利息	341	428
固定資産賃貸費用	67	63
為替差損	548	—
雑損失	212	207
営業外費用合計	1,170	698
経常利益	16,550	18,789
特別利益		
固定資産売却益	61	57
投資有価証券売却益	—	55
関係会社株式売却益	282	—
その他	47	—
特別利益合計	391	113
特別損失		
固定資産除売却損	294	473
その他	64	25
特別損失合計	359	499
税金等調整前四半期純利益	16,582	18,403
法人税等	4,831	5,919
四半期純利益	11,751	12,483
非支配株主に帰属する四半期純利益	772	552
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,979	11,931

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
四半期純利益	11,751	12,483
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,041	3,808
為替換算調整勘定	2,508	2,285
退職給付に係る調整額	△843	△850
持分法適用会社に対する持分相当額	△2	△11
その他の包括利益合計	△379	5,232
四半期包括利益	11,372	17,716
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,668	16,537
非支配株主に係る四半期包括利益	704	1,178

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期連結累計期間(自2025年1月1日至2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	29,159	—	—	29,159	—	29,159
菓子パン	121,351	—	—	121,351	—	121,351
和菓子	20,629	—	—	20,629	—	20,629
洋菓子	42,119	—	—	42,119	—	42,119
調理パン・米飯類	38,329	—	—	38,329	—	38,329
製菓・米菓・その他商品類	44,597	—	—	44,597	—	44,597
その他	—	18,909	3,587	22,496	—	22,496
顧客との契約から生じる収益	296,186	18,909	3,587	318,683	—	318,683
その他の収益	—	—	51	51	—	51
外部顧客への売上高	296,186	18,909	3,639	318,735	—	318,735
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,640	2,315	11,305	17,261	△17,261	—
計	299,827	21,225	14,944	335,996	△17,261	318,735
セグメント利益又は損失(△)	16,115	△237	808	16,686	131	16,817

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額131百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自2026年1月1日至2026年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額(注)2
	食品事業	流通事業	その他 事業	計		
売上高						
食パン	30,224	—	—	30,224	—	30,224
菓子パン	126,201	—	—	126,201	—	126,201
和菓子	22,098	—	—	22,098	—	22,098
洋菓子	43,117	—	—	43,117	—	43,117
調理パン・米飯類	40,749	—	—	40,749	—	40,749
製菓・米菓・その他商品類	48,184	—	—	48,184	—	48,184
その他	—	19,200	3,834	23,035	—	23,035
顧客との契約から生じる収益	310,575	19,200	3,834	333,611	—	333,611
その他の収益	—	—	60	60	—	60
外部顧客への売上高	310,575	19,200	3,895	333,672	—	333,672
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3,748	2,230	11,794	17,773	△17,773	—
計	314,324	21,431	15,689	351,446	△17,773	333,672
セグメント利益又は損失(△)	17,771	△475	900	18,196	132	18,328

(注)1 セグメント利益又は損失の調整額132百万円は、セグメント間取引の消去であります。

2 セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2026年2月25日開催の取締役会決議に基づき、自己株式649,800株の取得を行っております。この結果等により、当第1四半期連結累計期間において、自己株式が2,224百万円増加し、当第1四半期連結会計期間末において自己株式が57,741百万円となっております。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	10,192百万円	10,819百万円
のれんの償却額	419百万円	418百万円

3. 補足情報

(1) 連結販売実績

(単位:百万円)

セグメント名称	区 分	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)		当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)		比 較 増 減	
		金 額	構 成 比	金 額	構 成 比	金 額	前年同期比
食品事業	食 パ ン	29,159	9.2%	30,224	9.1%	1,065	103.7%
	菓 子 パ ン	121,351	38.1	126,201	37.8	4,850	104.0
	和 菓 子	20,629	6.5	22,098	6.6	1,468	107.1
	洋 菓 子	42,119	13.2	43,117	12.9	998	102.4
	調理パン・米飯類	38,329	12.0	40,749	12.2	2,420	106.3
	製菓・米菓・その他商品類	44,597	14.0	48,184	14.5	3,586	108.0
	食 品 事 業 計	296,186	93.0	310,575	93.1	14,388	104.9
流 通 事 業	18,909	5.9	19,200	5.7	291	101.5	
そ の 他 事 業	3,639	1.1	3,895	1.2	256	107.1	
合 計	318,735	100.0	333,672	100.0	14,937	104.7	

(2) 主要子会社実績

(単位:百万円)

	売 上 高				営 業 利 益			
	2025年 第1四半期	2026年 第1四半期	増減額	増減率	2025年 第1四半期	2026年 第1四半期	増減額	増減率
(株)不二家〈連結〉	28,051	29,558	1,507	5.4%	1,010	414	△ 596	△ 59.0%
(株)サンデリカ	26,574	28,798	2,223	8.4	682	987	304	44.6
(株)YKベーキングカンパニー〈連結〉	9,510	10,501	990	10.4	188	495	306	162.7
ヤマザキビスケット(株)	8,922	9,556	633	7.1	990	1,297	307	31.0
(株)東ハト	7,786	8,602	816	10.5	549	666	116	21.3
(株)ヴィ・ド・フランス	7,175	7,468	293	4.1	369	451	81	22.1

(3)2026年12月期第1四半期の単体業績 (2026年1月1日～2026年3月31日)

①単体経営成績

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	227,697	3.6	11,683	4.8	13,456	12.6	9,338	5.5
2025年12月期第1四半期	219,889	2.6	11,144	△ 2.8	11,952	△ 9.0	8,853	△ 4.2

②単体財政状態

	総資産		純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円
2026年12月期第1四半期	587,353	343,385		
2025年12月期	598,007	344,259		

(4)単体販売実績

(単位:百万円)

期別 品 種 別	前第1四半期 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)		当第1四半期 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)		比較増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	前年同期比
食パン	26,619	12.1%	27,508	12.1%	889	103.3%
菓子パン	99,611	45.3	102,870	45.2	3,259	103.3
和菓子	20,394	9.3	21,702	9.5	1,308	106.4
洋菓子	32,002	14.6	33,091	14.5	1,088	103.4
調理パン・米飯類	14,428	6.6	15,006	6.6	577	104.0
製菓・米菓・その他商品類	11,990	5.4	12,530	5.5	540	104.5
小計	205,046	93.3	212,710	93.4	7,663	103.7
デイリーヤマザキ事業	19,818	9.0	20,073	8.8	254	101.3
内部消去	△ 4,976	△ 2.3	△ 5,086	△ 2.2	△ 109	—
合計	219,889	100.0	227,697	100.0	7,808	103.6

(5)単体営業利益増減の内訳

(単位:百万円)

	2025年 第1四半期		2026年 第1四半期		増減額	増減率 (%)
	金額	%	金額	%		
営業利益						
山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く)	11,378	5.5	12,158	5.7	779	6.9
デイリーヤマザキ事業	△ 234	△ 1.2	△ 474	△ 2.4	△ 240	—
合計	11,144	5.1	11,683	5.1	539	4.8

<山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) 増減内訳>

(単位:百万円)

	2025年 第1四半期		2026年 第1四半期		増減額	増減率 (%)	営業利益増減要因
	金額	%	金額	%			
売上総利益	65,740	32.1	68,740	32.3	2,999	4.6	売上高の増加 3,495 原材料費の減少 604 製造労務費の増加 ▲ 945 製造経費の減少 102 製造償却費の増加 ▲ 138 その他 ▲ 119
販売費及び一般管理費	54,362	26.5	56,582	26.6	2,220	4.1	人件費の増加 ▲ 816 経費の増加 ▲ 1,402 償却費の増加 ▲ 2

(注)「営業利益増減要因」欄で▲は営業利益のマイナス影響を表しています。

「%」欄は山崎製パン (デイリーヤマザキ事業を除く) の売上高に対する比率を記載しています。